

# 第3章 下水道事業の将来像

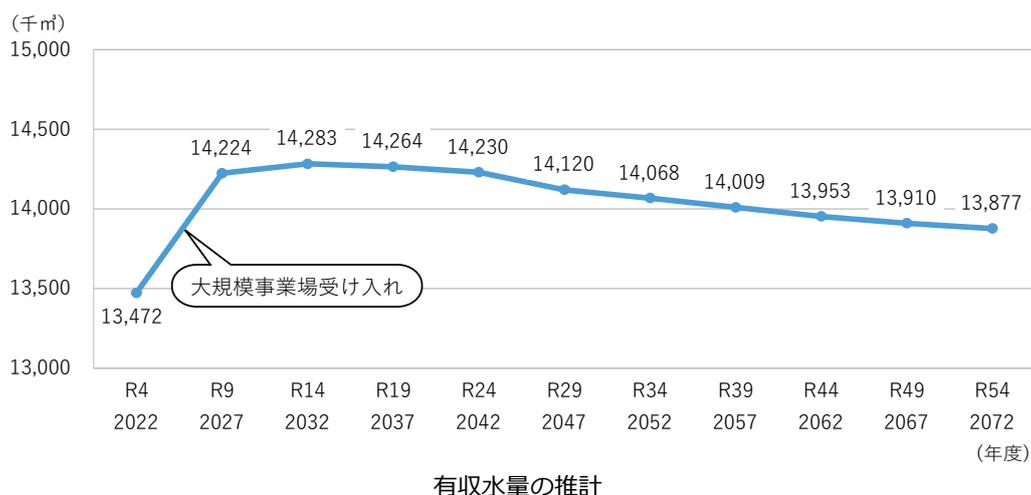
1. 下水道接続人口と有収水量の推計
2. 計画期間
3. 基本理念
4. 基本方針・基本施策
5. 管理指標・目標
6. 進捗管理

# 第3章 下水道事業の将来像

## 1 下水道接続人口と有収水量の推計

「第8次刈谷市総合計画※」では、令和24年（2042年）の目標人口を157,700人としています。総人口の増加や下水道接続率の向上に伴って、下水道接続人口は緩やかに増加が続く見込みです。

一方、有収水量は、下水道接続人口の増加や大規模事業場からの生活排水を受け入れることによって、令和14年度（2032年度）ごろまでは増加するものの、長期的には節水機器の普及や節水意識の高まりなどによって、減少していく見込みです。



## 2 計画期間

本ビジョンの計画期間は、「第8次刈谷市総合計画」の基本計画期間に合わせて、令和5年度（2023年度）から令和14年度（2032年度）までの10年間とします。

### 3 基本理念

国土交通省の「新下水道ビジョン」や愛知県の「あいち下水道ビジョン2025」を踏まえるとともに、「第8次刈谷市総合計画」や「第4次刈谷市都市計画マスタープラン<sup>\*</sup>」を本ビジョンの上位計画として位置付けます。

下水道事業は、将来に渡ってサービスを持続していく使命があることから、本ビジョンの基本理念を『まちづくりを支える下水道 ～水の帰りみちをいつまでも～』とします。



## 4 基本方針・基本施策

基本理念に基づいて、6つの基本方針を掲げ、それぞれに基本施策を設定します。

### 基本方針1 効率的な施設管理の推進

#### ◎ 予防保全型維持管理の推進

- ・ 計画的な改築・修繕により、下水道施設の良好な維持管理の推進や財政負担の平準化を図ります。

### 基本方針2 災害に強い・強靱な下水道の構築

#### ◎ 地震対策の推進

- ・ 重要な污水管きよの耐震化に引き続き、重要な雨水管きよの耐震化を推進します。

#### ◎ 浸水対策の推進

- ・ 雨水ポンプ場の耐水化<sup>※</sup>を推進します。
- ・ 雨水貯留施設などの整備を推進します。
- ・ 雨水貯留浸透施設の設置補助制度の拡充や制度の利用促進を図ります。

### 基本方針3 汚水処理の推進

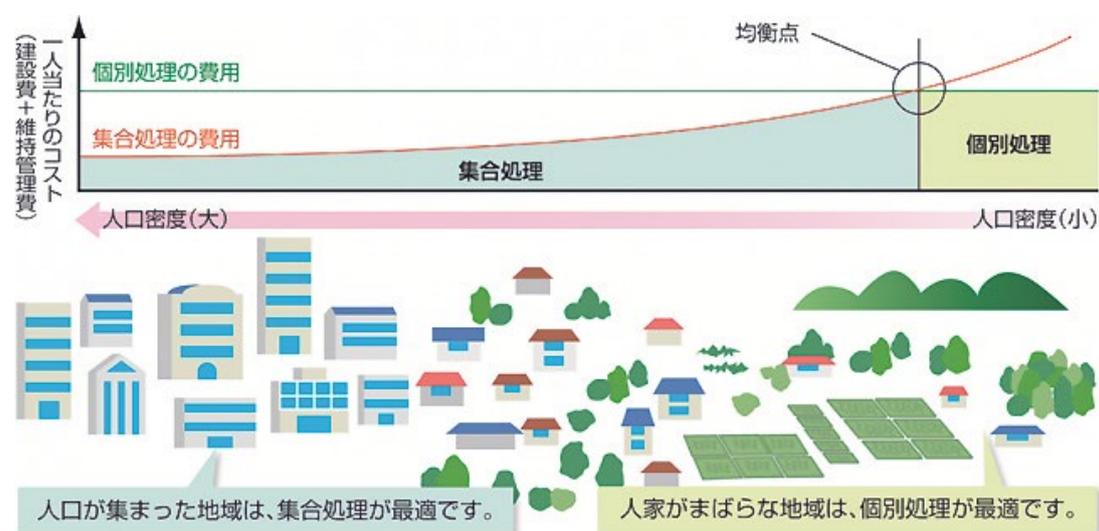
#### ◎ 汚水処理の最適化

- ・ 污水管きよ整備については、採算性や地域性を考慮したうえで、整備効果が見込まれる区域の整備を優先し、その他の区域については今後の整備のあり方を検討します。
- ・ 市街化区域内の未整備区域については、土地の利用状況などの進展に合わせて、整備手法や進め方などを検討します。

## コラム

## &lt;集合処理と個別処理&gt;

一般的に、都市部などの人口密度が大きい地域では公共下水道などの集合処理が経済的となり、民家がまばらで人口密度が小さい地域では個別処理である合併処理浄化槽が経済的となります。



(出典：「全県域污水適正処理構想」(愛知県))

集合処理と個別処理のイメージ



## 基本方針4 快適な生活環境と水環境の創出

### ◎下水道接続の促進

- ・ホームページや市民だよりなど、様々な機会を捉えて、下水道の役割や補助制度などの周知を行い、下水道への接続を促進します。

### ◎合流改善施設の適正管理

- ・合流区域からの放流水について、継続的に水質検査をするとともに、施設を適正に管理します。

### ◎合併処理浄化槽の有効利用

- ・関係機関などと連携し、下水道整備区域外での合併処理浄化槽の設置促進策の検討や、適正な維持管理に向けた啓発を図ります。



## 基本方針5 積極的な情報発信の推進

### ◎情報発信及びイメージアップ

- ・事業運営に関する情報などのホームページへの掲載や、イベントなどの活用により、下水道への理解の促進を図ります。
- ・デザインマンホール蓋を利用したPRや収益方法の可能性について、調査研究します。



## 基本方針6 持続的な事業運営の推進

### ◎下水道使用料の適正化

- ・収入の増加や支出の抑制などの経営改善に取り組むとともに、継続的に最適な下水道使用料の設定を検証します。

### ◎業務の効率化

- ・愛知県や他市町との広域化共同化の取り組みを推進するとともに、官民連携手法の導入の可能性について、調査研究します。
- ・サービス業務や維持管理業務などについて、DX<sup>※</sup>を推進します。

### ◎人材育成と技術継承

- ・OJT<sup>※</sup>のほか、外部研修への積極的な参加などにより、職員の専門知識や技術力の向上を図ります。
- ・BCP<sup>※</sup>の定期的な見直しや防災訓練などを通じて、災害対応能力の向上を図ります。

## 5 管理指標・目標

本ビジョンの進捗を管理するため、管理指標と目標を以下のとおり設定します。

目標については、現時点の下水道使用料などをもとに設定しており、今後の総人口の増加を見込んだうえで、大規模事業場からの生活排水の受け入れや下水道接続の促進などの取り組みによって目標の達成を目指します。

管理指標	現状 (令和3年度(2021年度))	目標 (令和14年度(2032年度))
汚水処理人口普及率	97.6%	99%
下水道接続率	91.9%	94%
経費回収率	81.8%	90%

## 6 進捗管理

毎年、計画の進捗管理（モニタリング）を行い、その結果を次期下水道ビジョンに反映させるPDCAサイクル<sup>\*</sup>を機能させていきます。

